

鎌ヶ谷市多文化共生推進会議 第1回会議 会議録

日 時 平成27年3月19日(木) 13時30分～15時20分
場 所 鎌ヶ谷市役所6階第4委員会室
出席委員 信夫稔委員長、品川洋之助副委員長、鷹野悦子委員、
高橋寛委員、井手勝則委員、鈴木吉久委員、
海老原メリジェーン委員

(敬称略)

事務局 川名企画政策室長、仲村主任主事
記 録 仲村
傍 聴 者 なし

(1) 委嘱状交付式

会議に先立ち委嘱状交付式が行われ、清水聖士市長から委嘱状が各委員に交付された。

引き続き市長からの挨拶、各委員及び事務局からの自己紹介があった。

(2) 委員長、副委員長の選出について

(事務局)

それでは、ただいまより鎌ヶ谷市多文化共生推進会議を開催する。

本日は第1回の会議なので、委員長の選任が行われるまで、事務局で司会進行を務めさせていただきます。

鎌ヶ谷市多文化共生推進会議設置要綱の第5条に基づき、委員長及び副委員長の選出を互選によりさせていただきます。

どなたか、立候補または推薦のある方はいますか。

(委員)

多文化共生推進連絡協議会の立場として、信夫委員を委員長に推薦したい。

(事務局)

ただいま、委員長に信夫委員の推薦があったが、何かご意見はあるか。

(一同)

異議なしと発声する者あり。

(委員)

多文化共生推進連絡協議会の立場として、鷹野委員を副委員長に推薦したい。

(委員)

多文化共生推進連絡協議会から委員長と副委員長が選出されると、会議体のバランスが悪い。

副委員長については、他の団体または個人から選出されるのが妥当だと思うがいかがか。

(委員)

その方が良いと思う。

(事務局)

それでは、どなたか、立候補または推薦のある方はいるか。

(委員)

副委員長には、民間経験も豊富な品川委員を推薦したい。

(事務局)

ただいま、副委員長に品川委員の推薦があったが、何かご意見はあるか。

(一同)

異議なしと発声する者あり。

(結論)

委員長に信夫委員、副委員長に品川委員が選出された。

以下、信夫委員が議長席に移り、議事の進行を行った。

ここで信夫委員長から、就任の挨拶あり。

(3) 会議の公開について

(4) 会議録署名人の選出について

(事務局)

要綱に、原則公開がうたわれているがいかがか。

また、本日の会議の議事録署名人を2名選出願いたい。

委員長・副委員長を除いた名簿順に、鷹野委員、高橋委員を提案する。

(委員長)

会議は公開する、ということについて皆さんのご意見はいかがか。

(一同)

異議なしと発声する者あり。

(委員長)

では、鎌ヶ谷市多文化共生推進会議は原則公開とすることとしたい。

会議録署名人についての事務局からの提案にご意見はあるか。

(一同)

異議なしと発声する者あり。

(委員長)

では、今回の議事録署名人は、鷹野委員、高橋委員にお願いする。

(5) 鎌ヶ谷市第二次多文化共生推進計画について

(6) 意見交換

(事務局)

～資料4・5に基づき、鎌ヶ谷市第二次多文化共生推進計画、意見交換シートに基づき説明。～

(委員長)

ただいまの説明について、何かご意見、ご質問はあるか。

(副委員長)

外国人が外国で生活していく上で一番困るのが情報不足なので、自治会の加入については、情報ソースとして非常に重要となってくる。

外国人の現状の生活環境は限られており希薄となっているので、近所付き合いの促進が多文化交流に繋がってくるだろう。

(委員)

自治会には固いイメージがあるので、現状自治会はある中で、外国人にはFace to Face で何でも相談できるような柔らかいイメージをもってもらふ必要があるだろう。

(副委員長)

外国人から自治会に働きかけていくことも必要である。

(委員)

確かに自治会には難しいイメージがある。

まず、自治会回覧にある漢字が難しい。

(副委員長)

自治会回覧については日本人でも全部は読んでいない。

外国人には情報交換等で助け合える友達づくりが重要だと思う。

(委員)

商工会では様々なイベントを実施しているので、外国人の方が友達を作るきっかけの場として活用してほしい。

また、イベントについては、鎌ヶ谷ブランド館等の様々な主体とコラボしていく必要もある。

(委員)

昔と今では市民意識が変化してきており、今は「自分のことは自分でやる」といった発想が根底にある。

皆、自治会の重要性・必要性は認識しているが、この市民意識の変化が壁になっている。

自治会回覧も見やすくし、外国人も積極的に自治会に参加できる環境作りを進めていきたい。

(副委員長)

行政だけでは行き届かないサービスの隙間をボランティアは担うべきである。

(委員)

ボランティア活動には高齢者の方は積極的に参加するが、若い世代の方は参加しない。

(副委員長)

ボランティア活動には、高齢者、若者関係なく、健康な人が参加すれば良い。

(事務局)

多文化共生を進めていく中で、自治会も活性化してくると思う。

(委員)

多文化共生を推進するメニューを色々揃えておき、それぞれの主体ができることに一つ一つ取り組んでいく中で、お互いに Win-Win の関係が築けたら良いと思う。

商工会にできることがあれば前向きに検討させていただく。

(委員)

自分は自治会回覧を全部読むが、全くわからない外国人もいるだろう。

案として、見出しだけでも英語表記にするのはどうか。

見出しで内容に興味があれば、別途詳細を詳しい人に聞くこともできる。

(委員)

外国人にとっては、平仮名のやさしい日本語で表記されているのが一番助かる。

(委員)

自治会回覧の表記については、早速自治会連合協議会の事務局に話してみる。

(委員)

自治会に所属している多文化関連の団体とも連携していく必要がある。

(委員長)

見出しだけでも英語表記にしたりルビを振るのは良い案だと思う。

(委員)

回覧物のほとんどは行政から発行されており、地域独自で発行しているものはあまりない。

(委員)

見出しだけでも英語表記にする案に賛成である。

(事務局)

学校における多文化共生の現状についてはどうか？

(委員)

中学校の子ども達は日本語の吸収が早く、学校から保護者への伝達事項については、子どもを通して伝えてもらうことが多々ある。

しかし、コミュニケーションは取れるが、日本語の読み書きが苦手な子が多く、テスト等は全て平仮名で作成している。

近年国全体でも英語教育に積極的に取り組んでおり、市ではJETプログラムの一環でALT教師を各学校に配置している。

先程出た見出しだけでも英語にする案は非常に良いと思った。

学校現場でも検討していきたい。

(委員)

回覧に関しては、警察から発行されるものも相当数あるので、警察にも声掛けした方が良い。

(委員)

学校からのお知らせも、漢字で表記されていると難しいので、できる箇所

だけでもルビを振っていただけると助かる。

(委員)

校長会で提案させていただく。

(委員)

学校からのお知らせについては、別途担任の先生がルビを振っている学校もあると聞いた。

(委員)

外国人の保護者へは、先生がマンツーマンで対応していかないと、とてもフォローしきれないと思う。

(委員)

話は変わるが、鎌ヶ谷市で流れている防災無線は聞き取りにくい。

(委員)

聞き取れるように音を大きくすると、今度は音がうるさいという苦情があるとも聞いている。

(事務局)

防災無線については、適宜音が流れる方向を調整している。

(委員)

無線の内容の90%程度が迷子に関するものだと思う。

(事務局)

東日本大震災を契機に防災無線の重要性が再認識されている中で、できるだけやさしい日本語で無線を配信していく試みは良いと思う。

(委員)

機会を捉え、防犯協会にもお願いしてみたい。

(委員)

配信する情報も、人命に関わる災害等の緊急度が高い事項については、英語でも配信していくべきだと思う。

(7) その他

(委員長)

最後に、事務局より今後のスケジュールと会議の進め方について、説明願いたい。

(事務局)

本会議については、年度中3回を目途に開催することを予定しており、次回会議は本日皆様に議論いただいた「施策の柱1 交流のきっかけづくり」を事務局で取りまとめたものを基に議論を進めていきたいと考えている。

については、意見交換シートにご記入いただいたものを、4月30日(木)までに事務局までメール又はFAXにて送信いただければと思う。

(委員長)

それでは、本日の会議はこれで終了とする。

以上で会議は終了した。

会議録署名人の署名

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証するため次に署名する。

平成27年4月17日

氏名

鷹野 悦子

氏名

高橋 寛
